

優秀賞

## 思いやりにつつまれて

福岡県 田原中学校 一年  
竹部 里桜

今回作文を書くにあたり、いくつかのテーマがありました。その中で、「小さな親切」というテーマで作文を書きたいと思いました。それは、小さな親切にいつも助けてもらっているからです。

私は生まれつき、目に障がいがあります。右目は弱視で視野がせまく、見えにくさがあります。左目は義眼を使用しており、まったく見えません。そのため、日常生活や学校生活において困ることがあります。

例えば日常生活では、階段の境目が見えにくかったり、左側から人が来たり、物が飛んでくるのが分からないので、恐怖を感じる場合があります。また、学校生活では黒板の字が小さかったり、薄かったりすると見えにくいので、ノートを取るのが遅くなる、定規やピーカー等のメモリが見えにくく、間違えることが多々ある、などです。

いつも自分で解決しようか、人に頼もうか迷います。自分は、人に頼むことが苦手です。それは、頼むことで相手に迷惑がかかるのではないか、と思うからです。

そんなときに、先生や友人が、

「どうしたの?」「何に困っているの?」

と声をかけてくれます。そういうふう聞いてもらえると、気にかけてくれて嬉しいな、という気持ちになります。

中学生になり、今までと環境が変わりました。先生も友達も、今までとは違うので、自分を受け入れてくれるか不安でした。しかし、いざ学校が始まると、みんなが自分のことを普通の友達として接してくれることが、とても嬉しかったです。

そして、中学から中間テストや定期テストが始まり、テスト内容が濃く、書かれている量も増え、それと同時に字も小さくなったので、読みづらくなりました。ですが、読めないほどの小ささではなかったですし、そえられている図も見えづらさはあるものの、がんばれば見えていました。

先生方はテストの作成で大変にも関わらず、私のことを気づかってくださり、テストの字や図を拡大してほしいか聞いてくれたり、時間の延長をするかなど、どの教科の先生も私のことを心配してくださり、声をかけてくださいます。私は、心がとても温かくなりました。

私は今まで、片目の視力だけで日々を過ごしてきました。たくさん苦勞して悩んできましたが、本当に困った、きつと思ったことはありませんでした。

これも、私に関わってくれるみなさんの小さな親切があったからだ、心から思います。これからは自分も困っている人に親切にできるように、日々を過ごしていきたいと思っています。